

6-1 才市 美奈 教諭 「イースター島にはなぜ森林がないのか」

単元構想図

**「未来に向けて！世界の実
から自分の考えを持とう」**
学習の流れ(全6時間)

1. 学習課題をつかもう (1)
**文章の要旨と主張をとらえよう
自分の考えを持ち伝えよう**
2. 事実と意見との関係に注意して読もう (3)
・文章構成(序論)(本論)(結論)
イースター島の紹介
・本論の内容をとらえる
・筆者の主張と要旨をとらえ、
自分の考えを持つ
3. 筆者の主張に対する自分の考えをまとめ伝えよう (2)
・構成メモを活用して自分の考えを書く
・書いた文章を交流する
・自分について力をふり返る

今年度第1回目の研究授業が、5月10日に行われました。1回目の授業であることや、ゴールデンウィークのすぐ後ということで、どなたも希望されていなかった日だったのですが、才市先生が快く引き受けて下さり、とても助かりました。せっかくの5連休にもかかわらず、学校や自宅で授業の準備をされたのだと思います。授業を公開していただき本当にありがとうございました。

さて、今回は6年生の「イースター島にはなぜ森林がないのか」という説明文の教材で、単元名を「未来に向けて！世界の実から自分の考えを持とう」とし、単元を構成されていました。〈左の写真〉

本時の授業で身につけさせたい資質・能力は「文末表現をもとに全体で話し合い、筆者の主張をとらえる。それに対して、自分はどうか書き、ペアや全体で伝えることで表現する力を身につけさせる。」でした。今回は、研究協議をブロックから学年部に変え、グループで話し合う時間を短くして全体協議に移りました。積極的な発表をしてくださった学年部ありがとうございます。「主体的な学び」を研究している私たちですから、研究協議でも自分たちが「主体的な学び」をしていきたいですね。



授業者より

・主張をとらえて自分の考えを持たせたかったが、要旨も入れてしまったために子どもが混乱してしまっていた。要旨を15分ほどにし自分の考えを持つところを16から17分ほど設定し対話で自分の考えと友だちの考えを比べ書き足したりして深めたかったのだが・・・言葉を解釈しきってなかった。はじめのところで言葉に時間をかけすぎてしまった。

参観者より

- 自分の考えを持とうという意識付けのためには、導入部分で他の簡単な文章を読み、賛成か反対か自分の意見をもたせてからイースター島に入るとどうだろう。
 - 筆者の主張に自分が賛成か反対か立場を明確にすると考えを持ちやすかったのでは？
 - 児童の中に筆者の主張をとらえられていなかった子どもがいたので、筆者の主張を自分の言葉で言い換えて見たり、下学年に説明するという想定で話をさせたり、自分の経験や生活からめて主張を解釈すればよかったのではないかと。
- 既習事項(4年、5年で学習した「要旨」)の掲示があり、活用しているのがよかった。〈右の写真〉
- 子どもの反応を見て指導方法をかえていたのがよかった。
- 本時に「要旨」をまとめることが必要だったか？
 - 「主張」がとらえられていなかった自分の考えまでいかなかったのでは？
 - めあてを「あなたが筆者ならこの文章で何を主張し、読み手としてはどんな立場で受けとるだろうか。」とし、主体的な学びへと導きたい。



村松指導主事より

「要旨をとらえること」は5年の既習事項であるが、今の6年生の実態は「要旨をまとめるのに弱さがある」となっている。児童の実態と身につけさせたい力にズレが生じていたのではないかと。前時と本時がうまくつながってなかったのか「事実」のおさえられていなかった。本時の導入で振り返ってみればよかったのかもしれない。

ポイント

- ☆「身につけさせたい力」とそれに対する「児童の実態」を踏まえてゴールから逆向きで単元構成を考えていくとよい。学びの文脈(授業のストーリー)をつくるのが大切。
- ☆児童の実態をとらえ指導計画を立てることが大切。前学年の既習事項が身につけていないなら、1学期、2学期・・・と段階を踏みながら1年間でその既習内容についての力を必ずつけなければならない。逆の言い方をすれば、本単元で必ず指導しなくてもよい。子どもの実態に合わせて各教科において要旨をまとめさせることも大事。
- ☆主体的な学びへのめあてを考える時、疑問形や2段階のめあても考えられる。例えば、「主張は何か。あなたはどうか思うか。」
- ☆「要旨」は、相手意識を持たせてまとめるものであるため、誰のために、何のためなのかで分量やまとめ方もかわる。

6年生がこの1カ月の間に最上級生らしくなってきたと感じる時があります。6年1組の授業を何度か参観させていただきましたが、才市先生の言葉を大切にされた授業の中で繰り返させる「なぜ?」「どうして?」などの切り返しの発問に一生懸命答えようとする子どもたちの姿・・・子どもたちの学ぼうとする姿勢がどんどん変わってきています。

次の研究授業は、今回に引き続き「説明文」です。5月24日4年2組で行われます。教材文を配っておきますので、見ておいてください。山岡先生、よろしくお願いいたします。

前時までに学習した「事実」や文末表現、前学年の「要旨」を掲示して活用できるように工夫しています。

